

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和6年度分)

< 県の評価等 >

施設所管部名 教育委員会

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立鈴鹿青少年センター（鈴鹿市住吉町南谷口）
指定管理者の名称等	鈴鹿フォレストパートナーズ株式会社 代表取締役 吉川 征道（鈴鹿市矢橋1丁目23番地4号）
指定の期間	令和6年4月1日～令和23年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	①青少年センター条例第4条に規定する事業の実施に関する業務 ②青少年センターの施設等の利用の許可等に関する業務 ③青少年センターの利用料金の収受等に関する業務 ④青少年センターの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ⑤青少年センターの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価 ※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R6	R5	R6	
1 管理業務の実施状況		B			●計画に基づき適切に点検を行っている。修繕対応も速やかに行っており、利用者の安全・安心を第一に維持管理が行われている。 ●現場スタッフとの情報共有もできており、有事につながる可能性があるヒヤリハットを未然に防いでいる面も多い。
2 施設の利用状況		B			●研修や部活動等で会議室を利用する方等、宿泊以外の利用者も多い。 ●子どもを対象とした体験プログラム以外に、経験のあるスタッフによる社会人を対象とした研修プログラムを行っていることは強みであるため、引き続き取り組まれない。具体的にはチームビルディング研修や指導者研修があり、今後利用者の拡大に努めていただきたい。
3 成果目標及びその実績		B			●成果目標である延施設利用者数は目標数73,300人に対して98,172人で、目標の134%の実績となり、過去10年間で最も多い利用者数であった。定員稼働率は目標29.2%に対して22.4%と成果目標を達成できなかった。 ●利用者数が増加している一方で、定員稼働率が低い原因としては、研修等の日帰り利用者が多く、宿泊利用者数が少なかったからである。

※「評価の項目」の県の評価：
「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	●リニューアル初年度にして、過去10年間で最多の利用者数があった。リニューアルされた施設の魅力・強みを十分にPRし、成果へつなげたあとが見られ、結果として多くの人に鈴鹿青少年センターの魅力が伝わる形となった。アンケートからは、リピーターにつながるとされる利用者の声も多く見られ、次年度以降への期待が持てる。 ●一方で、主催事業の参加者は少なく、課題を残す結果となった。この点は定期会議でも取り上げられ、PDCAを経てブラッシュアップを試みている様子が見られる。原因としては、初年度ゆえの認知度の低さ、広まりにくさが大きいと思われ、次年度以降、拡大していく見通しではあるが、広報活動の一層の充実や幅広い層が参加できる体験活動の整備など打つべき手は残されている。今後こうした課題にどのようにして応えていくのかという点に注目したい。 ●安心・安全を第一に運営しており、危機管理水準は高い。特に8大アレルゲン除去と特定20品目をできる限り除去した食事の提供は鈴鹿青少年センター独自の強みであり、「アレルゲンフリー」という食への配慮・こだわりが他の面でも利用者の安心感につながっていることがアンケートからも見て取れた。利用者からも好評であり、継続されたい。 ●利用者の拡大という面では、近隣施設や民間企業を始めとした幅広い団体と連携する取組が多く見られ、熱心な動きが見て取れる。 ●質の向上を目指すという面では、アンケートなどから見られる利用者の声を真摯に受け止め、改善の一手としていく姿が多く見られた。
--------	---

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況			
①鈴鹿青少年センター条例第2条に基づく事業の実施に関する業務			
・青少年及び社会教育関係団体の施設の利用、指導業務、利用許可、料金収受及び関係者への研修業務等に関する業務を実施した。 ・利用団体にはメールでの連絡を中心に、学校団体には合同の事前説明を実施し、当日は生活面の助言、創作活動の事前講習を行い鈴鹿青少年センターでの活動支援を実施した。 ・主催事業ではYMCAのプログラムを元に、SDGsや健康体操等インクルーシブな体験やニュースポーツであるタスポニー・ピックルボールを取り入れた新しい事業を展開した。また三重県カヌー協会との連携で親子カヤック教室、伊勢形紙協同組合の協力で伊勢型紙ワークショップを企画した。 ・鈴鹿青少年センターで開催した「東海北陸地域青少年施設協議会運営研究大会」に幹事・会長として参加した。 ・「三重県から地域ぐるみで体験の風を起こそう運動実行委員会」を立ち上げた。地域の方々の連携により、無料でさまざまな活動を体験できる生涯学習事業を鈴鹿青少年センターで実施し、青少年の健全育成に寄与した。 ・2月に「森のフェスタ」を開催し、地域のアウトドアブランドメーカーの出店と、ランニング・プロギングイベントを実施した。 ・さまざまなイベントや事業をとおして施設のPRに努めるとともに、SNSを活用したセンター及びセンター周辺の魅力を発信した。 ・利用申請、利用許可及び利用料金収受等に関する業務については、取扱基準、利用料金の納入方法等を定め、適正に運用した。			
②施設及び設備の維持管理並びに修繕に関する業務			
・維持管理計画書どおり実施。 ※防火設備定期検査は建築確認済書を提出しており、改修後、1年目は点検不要なため、点検省略。 ・令和6年度の修繕費の支出額は計2件で1,059,300円(税込) エレベーターNo.3基板取替作業…660,000円 管理研修棟B棟屋根防水補修工事…399,300円 ・修繕計画実施なし。			
③県施策への配慮に関する業務			
・「県民の日」のイベントとして、さまざまな体験や走り方教室を鈴鹿青少年センターにて実施した。 ・本よもうねっとMIEのキックオフイベントを鈴鹿青少年センターにて実施し、森のライブラリー(屋外用可動式本棚)を設置した。 ・みえ出逢いサポートセンター主催の婚活イベントを鈴鹿青少年センターにて開催した。 ・三重県競技力向上対策委員会の主催する年間合宿「MIEスーパー☆プロジェクト」を受け入れた。令和7年度も受け入れていく。			
④情報公開・個人情報保護に関する業務			
・令和6年4月1日から施行している「鈴鹿青少年センターと鈴鹿青少年の森の整備運営事業のセンターに係る個人情報保護マニュアル」に基づき実施している。 ・令和6年度においては、開示請求はなかった。			
⑤その他の業務			
・特になし			
(2)施設の利用状況			
設定目標		実績	
延施設利用者数	73,300人	延施設利用者数	98,172人
定員稼働率	29.2%	定員稼働率	22.4%
・利用受付業務については、要求水準書第6章2(2)により、三重県立鈴鹿青少年センター条例等に基づき適正に処理した。			

2 利用料金の収入の実績

・利用料金収入目標額 133,248千円に対し、令和6年度実績額 84,856千円であった。 ・学校クラブ、学校研修等で利用する場合、引率者に対し利用料金の減額を適用した。(利用料金の減免額 30,538,720円)

3 管理業務に関する経費の収支状況 (単位:円)

収入の部			支出の部		
	R5	R6		R5	R6
指定管理料		91,718,700	事業費		76,914,199
利用料収入		84,856,442	管理費		101,100,692
その他の収入		150,996	その他の支出		0
合計 (a)	0	176,726,138	合計 (b)	0	178,014,891
収支差額 (a)-(b)	0	-1,288,753			

※参考 ※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

利用料金減免額	30,538,720
---------	------------

4 成果目標とその実績

成果目標	延施設利用者数	73,300人
	定員稼働率	29.2%
成果目標に対する実績	延施設利用者数	98,172人
	定員稼働率	22.4%
(参考指標)	施設利用者満足度	90%以上
(参考指標に対する実績)	施設利用者満足度	95%
今後の取組方針	自然に親しみ、学び、楽しむための教育活動拠点として、利用者の方々の目的達成のサポートができるよう新しい体験メニューの開発に今後も取り組みます。また県内の小中学校、高等学校の集団宿泊研修・課外授業、大学・企業のオリエンテーション合宿・研修等での利用促進の取組に努めていく。	

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R5	R6	
1 管理業務の実施状況		B	運営1年目で計画どおり実施している。また、法定点検等は自社で確認し、SPC内にてセルフモニタリングチェックシートを活用して確認している。自主提案事業にて実施している、「ダニ生息調査」・「循環配管及び濾過装置の低圧泡フォーム洗浄」にて宿泊者様への健康を損わないよう努めた。
2 施設の利用状況		B	本年度においては運営1年目という事もあり、十分な周知ができていない状況ではあったが、年度末・来年度に向けては問い合わせも増えてきている。体験活動に関するものは、YMCAを中心に内部で検討し、より良い体験活動の提供に向けて改善に努めた。また各事業の開催前と開催後に社員ミーティングを行うことで、次年度への準備も進めている。今後も引き続きSNS発信や広報等に注力し、より多くの方に施設を利用してもらうよう努める。
3 成果目標及びその実績		B	延施設利用者数は成果目標を達成する事ができたが、定員稼働率については未達成となっている。今後は三重県内の大学や近隣企業への営業活動を行い、利用いただける関係性を築くことで利用促進に努めていく。

※評価の項目「1」の評価 : [A] → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
[B] → 業務計画を順調に実施している。
[C] → 業務計画を十分には実施できていない。
[D] → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 : 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	・専門性を持った体験プログラム指導者の配置や、8大アレルゲン除去と特定20品目をできる限り除去した食事の提供等、利用者が安心して満足できる体験を受けてもらえる環境を整えた。 ・主催事業の開催にあたっては、事業内容毎に参加人員を考慮しながら実施した。本年思わしくない集客状況だった事業もあるため、次年度に向けて、名称や体験の内容を見直し、魅力ある体験作りを目指していく。 ・主催事業の案内を学校等に配布することで認知度向上に努めるとともに、SNS等も活用して情報発信に努めた。 ・NPS指標をもとに「利用者アンケート」を実施した。次回も利用したいと思ってもらえるよう、改善してほしい点を中心にヒアリングし、直ちに改善できることは対応することでサービスの向上に努めた。 ・施設設置目的である青少年・教育関係団体の宿泊研修の場として利用していただくために、各市町への営業活動と近隣県の旅行代理店への営業活動にも力を入れて取り組んでいきたい。 また、ニュースポーツ、文化クラブ等インクルーシブな活動の発信基地としての役割も担っていきたい。 ・利用者の安全確保のため、「危機管理マニュアル」を作成し、スタッフ全員が研修し備えた。また、職員を中心に防火防災講習を実施し、迅速かつ的確な対応をすることができるよう学んだ。今後は外部の講習等も受けることで、有事の際に対応できる組織にしていく。 ・業務の執行は、事業計画書・要求水準書に基づいて取り組んだ。次年度はスタッフ一人ひとりが複数の業務を執行できる体制づくりを行う。また、利用者の声も踏まえつつ、事業の目標を明確化し、達成に向けたフローや行動・結果を検証することで、安心安全かつ鈴鹿青少年センターでしかできない体験・合宿を行っていただけるよう、業務を遂行していく。
--------	--